社会的養護アフターケア事業

助成期間　2021 年 7 月～2022 年 2 月

日本民間公益活動連携機構（JANPIA）＊による「**休眠預金を活用した新型コロナ緊急支援助成金**」を「**ユニバーサル志縁センター（分配団体）**」さまからいただきました。こどもの里に関わる “生きづらさ”を抱える若者やこども、親を対象に、コロナ禍の中で困窮している方々に対してケア活動を実施しました。相談・伴走・訪問支援、食料・コロナ対策支援、スタッフスキルアップ研修、中高生キャンプ、本気で夕食会（女子）などの活動費用やスタッフ人件費をまかなうことができました。約6か月の助成期間で**3, 357, 414円**の助成金を受けました。活動・支援回数は 6 か月で合計 1000 回を超えました。また、2022年 3 月からも同じ助成金を受けることができました。続けて地域に住む社会的養護を必要する人たちのために活動していきます。

事業実施期間　2021年7月～2022年2月　　＊（　）内は目標件数・回数

	平均値（月）	のべ件数
相談・連絡（月 40 件）	117	935
同行・伴走（月 8 件）	10	79
訪問（月 5 件）	12	93
食糧・コロナ支援（計 40 回）	10	83
家族応援会議（月 3 回）	1	11
合計		1201

＊一般社団法人　日本民間公益活動連携機構（JANPIA）
JANPIA では休眠預金を活用して、行政が対応することが困難な社会問題の解決を目指して、民間公益活動①こども及び若者の支援②日常生活を営む上で困難を有する者の支援③地域活性化等の支援、を促進することを目指しています。（HP より）

社会的養護アフターケア事業について
40年前から西成区で活動しているこどもの里では、関わるこどもたちのニーズにそって制度の枠を超えたさまざまな活動を実施してきました。実際は、スタッフ個人個人がこどもたちと向き合い、こどもたちの状況や声を聞き取る中で、“必要なこと”をしてきました。それは制度の中で収まるものであれば“仕事”になりますが、制度をはずれたものは“自主活動”になります。その“自主活動”がこれまでのこどもの里の活動を作ってきたともいえます。
今回の「社会的養護アフターケア事業」は、特別に助成期間中だけ実施した活動ではなく、以前からこどもの里スタッフが自主的に活動してきたことを事業として実施しました。普段、相談などの件数を数えることはなかったのですが、今回の事業を通して改めてアフターケア事業の必要性を再認識することになりました。
今回の「社会的養護アフターケア事業」では“自主的な活動”を事業として社会的に必要な活動として人件費をまかなうことができました。地域で必要な子育て支援、社会的養護活動を行うことに対してお金が使われることは意義のあることであり、これからの社会的養護のあり方ではないかと考えています（植月）。